

第 56 回 埼 玉 県 学 校 事 務 研 究 大 会

大会テーマ「情熱をこめ事務をつかさどる～すべての子どもたちの笑顔と未来のために～」

— 学校徴収金 —

埼玉研は、第四次研究中期計画に基づき「豊かな環境を確かな支援で～学校事務の可能性は∞～」を大会テーマに、学校にかかわるすべての人が生き生きと活動していくため、学校事務の可能性を探り研究を推進してきました。

令和6年度から令和10年度までの5か年は、「情熱をこめ事務をつかさどる～すべての子どもたちの笑顔と未来のために～」を大会テーマといたしました。この大会テーマの下、学校事務における課題に対応した研究を進め、学校マネジメント機能の強化に資する学校事務の可能性を探求していきます。

また、本年は改訂した「彩の国コバトンプラン～埼玉の学校事務グランドデザイン～」の初年度でもあります。コバトンプランとは、中・長期的な学校事務の全体構想を描き、学校事務の機能や役割、目指すべき事務職員像を示して実現の道筋を明らかにすることを目標としたものです。学校の内外をつなぎ広げ教育の効果を上げていくことで、学校力を高める事務職員を目指し実行策を示しました。

社会が大きく変化し将来の予測が困難といわれる時代において、学校も社会の現状や変化を受け様々な課題を抱えています。そのような先行き不透明な時代に、教育活動はもとより学校事務の在り方についても状況に合わせて変じていくことが、子供の学びと豊かな育ちを実現すると考えます。事務をつかさどりコバトンプランを具現化していくために、一年次の研究課題を「学校徴収金」としました。そして、校務運営を担うためには事務の効率化を推進していくことが重要であると捉え、埼玉県全体の学校徴収金の実態を把握することから研究を始めました。

本研究大会を通して、事務職員が徴収金事務を行う上での課題や改善策、会計の仕組みをつくるための環境整備について、会員の皆様と共に考えていきたいと思えます。

**** 研究発表 ******

「情熱をこめ事務をつかさどる～すべての子どもたちの笑顔と未来のために～」

— 学校徴収金 —

文部科学省が平成31年の中央教育審議会答申で示した「学校・教師が担う業務に係る3分類」の中で、給食費をはじめとする学校徴収金の徴収・管理については、基本的には学校以外が担うべき業務として位置づけられています。

本研究では、答申で述べられているように、教員にとっても事務職員にとっても負担感が強いと思われる学校徴収金についての意識と現状を確認します。アンケート調査の結果から、学校での実践例を紹介し、徴収金事務の効率化にどのようにかかわることができるか、事務職員が校務運営に参画していく手立てを提案します。他にも、キャッシュレス決済など新たな取組を整理していきます。静岡県において、先進的な取組を推進した助言者をお迎えして、皆様と意見交換をしながら協議を深めたいと思えます。多くの方にご参加いただけると幸いです。

研究協議

柱1 学校徴収金における課題と解決策

柱2 学校徴収金における事務職員の役割を考える